

添付資料（１）

病院開設などの計画の内容

・診療日及び診療時間

月～金 9－12時、 15－19時

土 9－12時

診療整備計画の概要書

4. 開設の目的、必要性

今回開設する診療所においては、最重症を含む全ての急性期脳卒中に対し迅速に治療可能な体制を整え、周辺地域での急性期脳卒中診療を担うことを目的とします。投薬、静注で可能な治療のみならず、脳血管内治療や開頭手術治療を常時行える体制を整え、本庄児玉郡周辺地域の脳卒中医療に貢献する所存です。

現状、北部では群馬県への高度急性期および急性期入院患者の流出がそれぞれ 24.6%、18.5%と高くなっており、救急医療の不足が指摘されております（埼玉県地域医療構想 p11,12,90,93）。特に本庄児玉郡内では、脳神経領域に関し、脳血管内治療および開頭手術治療を常時緊急対応できる施設が不足しております。高度急性期及び急性期病床は北部地域全体では過剰と算出されておりますが（埼玉県地域医療構想 p91）、急性期脳卒中の分野に関しては本庄児玉郡の体制は十分ではないと考えられます。そのため、脳卒中救急患者の多くは県外や市外の医療施設（主に公立藤岡総合病院など）へ搬送されています。脳卒中では治療開始が早いほど治療効果が高いため、搬送時間が少なからず患者の不利益となります。特に最重症脳卒中の1つである脳主幹動脈閉塞症では脳血管内治療開始が分単位で遅れるごとに社会復帰率の低下が示されており、地域内で迅速に治療を行うことによって患者の神経予後を改善できると考えています。現状、本庄児玉郡内で常時脳血管内治療が可能な施設はなく、常勤の脳血管内治療専門医が2名以上配置されている施設は北部二次医療圏内にも多くありません。本施設は常勤脳血管内治療専門医を2名以上配置することで、本庄児玉郡周辺での急性期脳卒中治療の中心的役割を担うことを目指します。今後高齢化に伴い脳卒中を含む神経疾患の医療需要はしばらくは増加すると見込まれ（埼玉県地域医療構想 p92）、本計画はそれらの需要に対応するものです。急性期脳卒中以外にも、様々な脳血管障害、外傷、良性脳腫瘍などの幅広い脳神経外科関連疾患について手術治療可能な体制を整えていきます。また、脳神経外科と整形外科の横断的疾患である脊椎疾患についても手術治療可能な体制を整え、高齢化で増加する地域の需要に対応いたします。

上記のような内容であるため、病床機能区分としては高度急性期機能及び急性期機能を担う一般病床となります。当該医療機能を担う上での必要最低限の雇用計画について、現状で常勤脳神経外科医(脳血管内治療専門医)を2名確保しており、他に麻酔科専門医3名、整形外科(脊椎脊髄外科指導医)1名、脳神経外科専門医4名を非常勤医師として内定しています。

看護師に関しては看護師長 1 名含む 10 名を確保しており、常勤 8 名非常勤 2 名を予定。また、その他職員については下記を計画しております。

・職員構成予定

【開設時】

医師 10 名（常勤 2 名、非常勤 8 名）
看護師 10 名（常勤 8 名、非常勤 2 名）
放射線技師 1 名（常勤）
理学療法士 1 名（常勤）
医療事務 3 名（常勤）

【開設後 2 年目以降】

医師 10 名（常勤 2 名、非常勤 8 名）
看護師 10 名（常勤 8 名、非常勤 2 名）
放射線技師 3 名（常勤）
理学療法士 2 名（常勤）
作業療法士 2 名（常勤）
薬剤師 2 名（常勤）
看護補助者 2 名（常勤）
医療事務 4 名（常勤）

設備整備計画については病棟、手術室および洗浄消毒滅菌機器、脳血管撮影室を備え、検査機器に血管撮影装置、CT、MRI、レントゲン、骨密度、超音波、脳波を予定しています。

5. 開設などの計画の具体的内容

整備計画病床 19 床

医療機能：脳卒中医療

病床機能区分：高度急性期、急性期

病床種別：一般病床

病床数の根拠：

救急入院患者年間 500 名前後、予定入院 250 名とし、合計 750 名
平均在院日数 10 日とした場合に、 $750 \times 10 / 365 = 20.5$ となる想定です。